

令和8年度第1回志布志市まちづくり委員会 会議録

日付：令和8年9月1日（月）

時間：15時開会

場所：多世代交流施設 こころば

【開 会】 総合政策課地域政策グループ 前原サブリーダー 進行（15:00～）

協議前に施設見学を実施したいとの担当課からの申し出を受け、委員を3班に分けて施設を見学することとする。質問事項は後ほどの協議の場で質問していただくこととし、班ごとにフロアを分けて施設を見学した。

【課長挨拶】 総合政策課長あいさつ

皆様こんにちは、総合政策課長の川上でございます。

本日は、令和8年度第1回まちづくり委員会の開催を御案内いたしましたところ、皆様それぞれお忙しい中、多数御参加いただき誠にありがとうございます。

このまちづくり委員会の目的は、本市の「まちづくり」に関わる計画を策定する際に、策定作業の段階から様々な立場の市民の皆様に参加いただき、市民と行政が一体となったまちづくりを推進することによって、市全体で均衡のとれた発展を推進することとしております。

それぞれの組織などで積極的に活動しておられる委員の皆様方に、それぞれの立場で計画等に対する御意見をいただきながら、反映させていきたいと考えております。

今回の委員会では「多世代交流施設の整備について」、御意見をお伺いさせていただきます。

こちらの施設の経緯につきましては、令和4年5月までパチンコ店として運営されていた施設を、令和5年6月議会定例会にて予算を可決いただき、市として購入したものです。令和6年9月議会定例会で、建物の実施設計についての予算を可決していただき、令和6年度中に設計、令和7年度に改修工事を実施し、今年度の利活用開始となったところです。

委員の皆様には、まちづくり委員会の目的を念頭に置いていただきながら、それぞれの立場で、忌憚のない御意見をいただきますようお願いしまして、私の挨拶にかえさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【会長及び副会長選出】

進行から、会長及び副会長を選出したいとの説明の後、互選を求めたが特に提案はなく、事務局案の提示により、会長に野村不二生委員、副会長に村中洋人委員、小窪久美子委員が選出された。

【協 議】 議事進行：野村会長

多世代交流施設の整備について

・総合政策課から説明

1 地方創生関係交付金の概要について

地方から都市部への人口の流出をとどめ、持続可能で魅力的な地域を創生（地方創生）するために、地方自治体が進める独自の取組を支援する国の交付金である。

この交付金を活用する条件として、市として地方創生を効果的に進めるための「総合戦略」や「地域再生計画」を、交付金事業を含めて策定する必要がある。

また、地域で様々な役割を担われている皆さま（まちづくり委員会等）の積極的な参画を受けて進めることが条件となっている。具体的には、交付金事業の計画内容についての意見聴取、事業実施による数値目標の達成状況の把握・効果検証を行うもので、その結果については公表する必要がある。

交付上限額・補助率は 1 市町村 10 億円/年度、補助率 1 / 2、事業期間は原則 3 か年以内となっている。

2 効果検証の目的について

交付金制度要綱の規定により、交付金制度要綱第 11「効果の検証」では、本交付金の交付を受けようとする地方公共団体は、事業の実施状況に関する客観的な指標（K P I）を設定の上、その達成状況について、毎年度検証するものとする。と規定されている。

そのため、効果検証の方法として、委員の皆様からいただいた意見や質問を中心に、交付金事業を実施することが、客観的な指標（K P I）の達成に有効であったかなどについて「まちづくり委員会」で議論し、効果検証を行うこととしている。

3－①－ア 事業の概要として、交付金の申請様式を基に、事業概要を説明する。

3－①－イ 本事業についての意見聴取の場として、計画段階において地域の皆様から御意見をいただくため、令和 6 年 10 月 3 日に開催されたまちづくり委員会において、現地視察と意見聴取を実施した。委員会での協議の結果、本市に今必要とされている事業内容であり、是非進めていただきたいとの結論であった。その後、庁内での協議を経て施設の実施設計に着手した。

また、子ども・子育て支援事業計画でのニーズ調査を行い、子育て支援に向けて、市に整備を望む施設として「雨天時でも遊べる屋内施設の設置」という意見が約 3 割(回答数 1,440 件) あった。

3－①－ウ令和 7 年度の実績

令和 8 年度第 1 回志布志市まちづくり委員会 会議録

令和 7 年度は交付金を活用して、既存建物の全面改修、屋内遊具の設置、エレベーター棟の新設、駐車場の整備などの施設整備を実施した。

また、子どもから高齢者までの多世代の交流を促進し、居場所となる場所及び機会を提供するとともに、交流人口の増加及びにぎわいの創出を図ることを施設の目的に、市議会の審議を経て令和 8 年 1 月に施設条例を整備した。

条例の中では、サービス向上と運営費の節減、民間の柔軟なアイデアやノウハウを生かす指定管理者制度の導入を可能とした他、将来にわたり施設を維持し、運営を継続するために、応益負担の考え方のもと、利用料金を設定した。

令和 7 年 5 月には民間事業者の参入意向や施設の収益性等を図るサウンディング調査を実施。また、類似施設の調査を継続してきた。

施設条例の整備後から令和 8 年 2 月まで指定管理者を公募したところ 2 社から応募あり。選定委員会を経て、市議会で指定管理者が決定された。

3-①-エ 重要業績評価指標（K P I）の達成状況の表にあるとおり、令和 7 年度は施設整備が主だったため、指標の数字がない状態となっている。この状態で令和 7 年度の評価をしていただくのは難しいところではあるが、御意見をいただきたい。

質疑応答

Q 1 前回のまちづくり委員会（改修前）のときから見ていて、今回いい施設ができたと思った。後はこの施設を P R して、今年度以降利用者を増やしてほしい。

A 1 今後の P R が大事だと思っている。指定管理者とともに大隅半島のこども園、学童等に P R しているところである。そこから個人利用に繋げていきたい。

その他、インスタグラムなどを使って、広報していきたい。今日施設を御覧になられたことで、委員の皆様もそれぞれの関係団体に P R していただきたい。

Q 2 会議の場（交流室）はどういった人でも使えるのか。

A 2 3・4 階は 21 時まで空いているので、目的に応じてぜひ使っていただきたい。

Q 3 一昨年、宇城市「うきのば」に研修に行ったが、当該施設に引けを取らない建物だった。この建物を活かして移住にも力を入れてほしい。

A 3 関係人口、短期滞在などにも力を入れ、保育園留学、高校留学なども進めており、ゆくゆくは移住に繋がるような政策を推進していきたい。

Q 4 目標値で交流人口、子どもの入館者数の数字を減らしているのはなぜか。

令和8年度第1回志布志市まちづくり委員会 会議録

A 4 施設の入館者数の数字は前年度からの上積み人数を設定しているので、減らしているものではなく、増加数が記載されている。

Q 5 前回のまちづくり委員会で、観光者の交流の場も設けたいということだったが。

A 5 観光の目的地として組み込んでいただいたり、観光で本市に滞在しつつ、コワーキングスペースで仕事をしていただいたりと、多様な使い方をしていただきたい。

Q 6 日南線が赤字路線で、日南線に列車が来なくなる可能性もある。J Rとタイアップした旅行もいいのではないかと？広域にアピールする機会を設けると良いと思う。

A 6 J R日南線の担当も総合政策課で担当している。将来をどうするか協議しているが、一方で利用促進も行っている。沿線市のこども園等にP Rしていきたい。

Q 7 移住者について 都城市は全国でも取り上げられるような補助金を出している。補助金も充実させれば、移住者が増えると思われる。

A 7 都城市までの条件を提示することはできないと思われるが、若者に志布志市に定着してもらう必要がある。保育園留学、二地域居住の取組などで、志布志市を知ってもらうよう力を入れている。

Q 8 開業してから3,713人という数字は、一か月間の数字か。

A 8 令和8年7月の一か月間の数字である。夏休みで利用が増えることを見込み、指定管理者と夏休みまでの開業に向けて動いていた。

Q 9 夏休みを開けていただいて良かった。遠方から帰省した三女がころばを利用して、志布志市がいいと気に入ってくれた。地元の発信が必要になると感じた。

A 9 今回の委員の皆さまは、各種団体を代表して選出されている方々なので、ぜひ皆様も各団体に持ち帰って、P Rしていただきたい。

Q 10 アウトドアの大浜緑地公園の整備と、インドアのころばの整備を志布志市は行っているが、双方の利用をどのように増やしていくのか。

A 10 こころばは小さい子ども向け、緑地公園は大きな子ども向けなど使い分けができる。また、雨天時や、夏場の熱中症の危険があるときにころばを利用していただくなど、双方の施設を使い分けてほしい。

Q 11 千軒町は密貿易で栄えた街であり、当時の宝物もたくさんある場所である。イベントに繋げてみてはどうか。

令和８年度第１回志布志市まちづくり委員会 会議録

A11 夏休みの取組として、ラジオ体操を実施した。いただいた意見も参考にし、今後もイベントを増やしていきたい。

Q12 令和８年度のイベントの実施目標が４件だが、すでに決まっているイベントがあるのか。

A12 紙粘土を使ったイベントができないか検討している。また、楽器ができる社員が多いので、親子で楽器に親しむイベントも実施したいと考えている。その他、季節を感じるイベントも実施していきたい。

以上で質疑を終了し、令和７年度の事業の評価を行ったところ、全会一致で「本事業は、地方創生のために有効であった。」との評価をいただいた。

【そ の 他】

特になし。

【閉 会】 （～16:35）